

第6学年国語科学習指導案

1、単元名

～整理して話し合う～

教材：「グループで話し合おう」（教育出版 6 年）

2、単元の目標

(1) 国語科としての目標

○話し合いの目的を理解した上で話し合い、立場や条件を考慮しながら納得する結論に到ること。

(2) 汎用的スキル

○経験や思い、立場の異なる人の意見を整理して、目的に沿ったよりよい結論に到るように考えることができること。（協働する力）

(3) 態度・価値

○自分とは異なった経験や思い、立場をもつ人がいることを理解し、受けとめた上で整理することができる。（他者に対する受容・共感・敬意）

3、児童の実態

6 年生は、学校行事や特別活動などの様々な場で、話し合いを展開していく役割を担っていく機会に恵まれている。そこでは、1 人 1 人の 6 年生がリーダーシップを発揮して話し合いをまとめていく力が求められる。もちろん、そのリーダーシップとは、「自分がやりたいこと」に議論を近づけていくために発揮されるものではない。自分とは違う立場（例えば一年生）の人のことも考えて、協働していくように働きかける力である。

本単元の設定は、1 年生から 6 年生までの縦割り班活動で行う遊びについて話し合う場面となっている。6 年生が異学年交流の場でリーダーシップを発揮することは学校生活でもしばしば訪れる場面である。「遊びを決める」というゴールに向かって、「どのように整理するとうまくいくのか」という過程に焦点を当てて支援していく。

4、単元について

①教科から見た特性

本教材には、数人の 6 年生が遊びを決める話し合いが例示されている。その例示では、①メモを取る、②相手の意見に関連づけて話す、③目的を確かめながら話す、④理由を明確にして話す、⑤相手に質問する、⑥自分の意見と比べる、⑦相手の発言の意図を考えながら聞く、⑧話し合いが進まない場合には他の考えに目を向ける、など話し合いが円滑に進められるように工夫が提示されている。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点から見た特性

ここでは、話し合いの整理の仕方に着目させたい。それぞれの意見にはよさや課題がある。話し合いを出し合うだけでは、それらの特徴の整理が見えにくい。経験、思い、立場、遊びの特徴、遊びの条件など、様々な観点は、それぞれ関連し合い、順序や優劣がある。観点観点をうまく順序立てて整理していくことでよりよい結論に合意されていくことができる。その合意までの整理の仕方こそが、協働するための力であり、他者に対する受容・共感・敬意を示す態度である。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全 4 時間 本時 3/4 時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第 1 時	・縦割り班活動での遊びについて決める話し合いをすることを知る。 ・縦割り班活動の遊びの目的を理解する。 ・遊びの案を考える。		○多様な視点から考える必要のあるテーマの設定 ○解決したい、よりよくしたいという場の設定
第 2 時	・遊びの案を出し合う。	○伝える力	
第 3 時	・整理の仕方について考える。 ・整理をしながら話し合う。	○協働する力 ○批判的思考力 ○他者に対する受容・共感・敬意	○協働が生まれやすい活動・ルールの設定 ○他者との学び合いの設定
第 4 時	・決まった遊びを発表し合う。 ・整理の仕方について振り返る。	○メタ認知力	○可視化ツールの用意

6、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・話し合いの整理の仕方について考えることができる。
- ・整理をしながら話し合うことができる。

協働する力 批判的思考力 他者に対する受容・共感・敬意
協働が生まれやすいルールの設定 他者との学び合いの設定

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 7分	話し合いを整理するためには ○前時に縦割り班ごとに出し合った遊びの案を見合う。 ・案はたくさん出たけれど、どうやって決めたらいいんだろう。 ・私は・・・の遊びがしたいなあ。	◇遊びの案は、付箋紙などを書いて模造紙に貼っておき、可視化できて、操作できるものがよい。(可視化ツールの用意：批判的思考力)
展開 30分	○整理するための観点を出し合う。 【経験】 ・私が2年生の時に縦割り班活動で氷鬼をしたことがあって、とても楽しめたから。 【思い】 ・私はサッカーが得意だから、サッカーがいいと思う。 【立場】 ・1年生にとっては、バスケットボール遊びは難しいのでは。 【場所】 ・使える場所は、校庭の半分しかないから、野球は難しいのでは。 【遊びの特徴】 ・ドッジボールは結局全員がボールを投げられるわけではないし、当てられたらずっと外野にいる人も出てしまう。 【遊びの条件】 ・高おにをするならば、何か登るものがある場所がないと難しい。 ・リレーをするならば、トラックの線を引いたり、バトンの用意をしたりする必要があるね。 ○整理するための観点について話し合う。 ・【思い】は、自分の思いが語られている。自分の思いももちろん大事だけれど、みんなの思いも大事。だから【思い】は色々な人の【立場】から考える必要がある。そう考えたら、【思い】よりも【立場】を優位に考えていくべきでは。 ・【場所】は、縦割り班委員会から、毎月指定されている。今月の私たちの班の活動場所は…と決まっている。【場所】が決まれば、【遊びの特徴】や【遊びの条件】を考えていくことができる。だから【場所】は先に確定したいね。 ○整理するための観点から、遊びを決めるために話し合う。	◇話し合いを目的に照らして決めるためには、観点を整理していく必要がある。ここでは【経験】、【思い】、【立場】、【場所】、【遊びの特徴】、【遊びの条件】という観点で整理している。(多様な視点から考える必要のあるテーマの設定：協働する力) ◇これらの整理する観点はどれも対等な価値をもつということではない。観点を出し合った上で、どの観点を優先して話し合いを進めていくのかということについて話し合う必要がある。(協働が生まれやすいルールの設定：協働する力) ◇話し合いの場面では、付箋紙・模造紙・色マーカー・ホワイトボードなどを用いて子どもたちが自由に操作できる場を設定する。(解決したい、よいよきしたいという場の設定：協働する力) ◇整理するための観点について共通理解が図られることで論理的に遊びを決定していくことができる。(他者との学び合いの設定：協働する力)
結末 5分	○学習感想を書く。 ・今までの話し合いって、言いたいことだけ言っている人が言ったり、意見の強い人に流されてしまったり、聞いてもらえなかったりして、納得できないまま話し合いが終わることも多かった。でも、観点を整理することで、「この時はこう」「この人から見たらこう」とみんなで納得しながら話し合っていくことができた。 ・難しいことは、どの観点に重点を置くのかということ。そこでの意見の対立があった。他の班はどうやって重点を決めたのか知りたい。	◇話し合いの観点の整理ということについて学習感想を書くように伝える。(振り返りの場の設定：他者に対する受容・共感・敬意) ◆話し合いを観点で整理することのよさに気づき、話し合いに有効に用いている。(話し合い・模造紙・ホワイトボード・学習感想)